

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成24年2月16日 (2012.2.16)

【公表番号】特表2005-524036(P2005-524036A)

【公表日】平成17年8月11日 (2005.8.11)

【年通号数】公開・登録公報2005-031

【出願番号】特願2004-501842(P2004-501842)

【国際特許分類】

F 1 7 C 1/00 (2006.01)

A 6 1 M 1/14 (2006.01)

A 6 1 M 16/00 (2006.01)

F 1 7 C 7/00 (2006.01)

【F I】

F 1 7 C 1/00 A

A 6 1 M 1/14 5 8 0

A 6 1 M 16/00 3 7 5

F 1 7 C 7/00 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年12月22日 (2011.12.22)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 2】

第二隔室のガスの圧力は、絶対圧約 0. 1 0 1 M P a (1 気圧) 以上に維持されていることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 6】

第二隔室の圧力がその上限に近づいたときには、第二隔室に供給されることになる回収されたガスの特定の構成成分の最低限の含有量は、第二隔室の圧力がより低くてそのためその構成成分のための第二隔室の残存容量が増加しているときよりも大きくなることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 4】

望ましくは、第二ガスの少なくとも一部分は、それは望ましくは処理装置から回収されたガスを含み、第一ガスの構成成分であり、第一ガスは処理装置の処理工程を通過してきている。

回収されたガスは、回収されたガスが少なくとも一つの予め決定され分析された基準、望ましくは特定の構成成分の最低限の含有量、を満足するならば、それが容器の第二隔室

に供給されるように、適当な分析装置を使用して分析することができる。さもないと、それは大気中に排出されるか、或いは、代わりに、処理装置を通して再利用される。

代わって、回収されたガスは、例えば最低限の含有量の特定構成成分が存在する場合且つ最低限の含有量の設定が容器の第二隔室の圧力に依存している場合のように、予め決定された基準を組み合わせでもって満足するならば、容器の第二隔室に供給される。例えば、第二隔室における圧力がその上限値に接近するときには、第二隔室中に供給されることになる回収されたガスの特定の構成成分の最低限の含有量は、第二隔室の圧力が低くてそのため第二隔室がより大きな残存容量を有しているときよりも大きい。